



# 香港

Hong Kong



香港で10年以上営業する「味千ラーメン」は、すっかり市民に定着。中国本土にも120店舗を展開している



PART

2



## 香港でサービスを現地化 中国市場へのステップに

**香港を制する者が  
中国本土を制す**

香港を拠点に中国本土やアジアでビジネスを展開する日本企業といえば、従来は製造業が中心だったが、最近では飲食や小売りなど、いわゆるサービス産業の進出も目立っている。

二〇〇五年から〇六年にかけても、カジュアルウェアの「ユニクロ」やファストフードの「モスバーガー」などが進出。このほかにも居酒屋、英会話スクール、学習塾、人材派遣会社、理髪チェーンなど、あらゆるサービス関連業種が人口わずか六八〇万人の「小さな市場」に押し寄せている。

もちろん、多くの香港進出企業の視線は、その向こうにある「一三億人市場」への進出機会を見据えている。

中国本土の消費者にとって香港は「流行の発信地」。香港で受ける商品やサービスなら、中国本土でも受け入れられる可能性は高い。中国と日本は「同文同種」ともいわれるが、その文化的隔たりは意外に大きい。日本で人気の高い食べ物やファッションが、そのままの形で中国でも受け入れられることはむしろ珍しい。

香港は、「現地化」のための格好のテストマーケティングの場といえる。ここで消費者のニーズをくみ取り、中身を改善すれば、その商品やサービスは中国本土でも受

### COLUMN 02

#### 急速に発展を遂げる香港の漢方薬市場

香港は中国本土からの漢方薬の集積地であり、一大市場として知られている。なかでも、香港返還後、急速に増加した世界的な漢方薬の需要に応じ、香港政府は漢方薬に対する管理、安全性などへの許認可を厳しくすると同時に、各大学、研究機関での漢方薬の研究が進んでいる。その香港を拠点として、この10年間で飛躍を続け、世界各国に抗ガン漢方薬「天仙液」を供給している製薬企業が、中日飛達聯合有限公司である。陳海威（フィリップ・チャン）総経理は次のように語る。

「世界へ漢方薬の供給窓口として、香港が「中薬港（漢方薬の港）」といわれるほど、漢方市場の発展を遂げ、香港経済の一翼を担っています。この10年、香港の漢方市場も大きく変化してきました。これまで、漢方薬の性格上での信用性の欠如、品質管理などさまざま問題があ

中日飛達聯合有限公司  
China-Japan Feida Union Ltd.  
陳海威 総経理



りました。近年では中国製ダイエット用健康食品による被害なども記憶に新しいことだと思います。弊社は創業当時からそうした問題に徹底的に対応してきましたので、飛躍的に成長を成し遂げてきたのだと思っています。さらに、弊社を代表する製品の一つであります天仙液は、品質管理のみならず、効能効果の実証などに力を入れております。世界各国の研究機関や専門機関による臨床試験、また薬効をさらに高める研究などを、徹底的に行なっております。いまでは、「抗ガン漢方薬といえば天仙液」といわれるほど、日本、アメリカをはじめ、世界各地に安定供給しております」

け入れられやすくなるはずだ。  
**現地化で大量出店  
欧州進出も目指す**

そうした「現地化」の成功例といえるのが、熊本に本社を置く重光産業が展開する「味千ラーメン」である。

同社は一九九六年に香港一号店を出店。その後一〇年あまりで一七店舗にチェーン拡大した。「ラーメンはもちろんのこと、ギ

ョウザやコロツケなど日本食メニューを充実させたのが受け入れられた。当時、日本食レストランには高級なイメージがあったので、カジュアル化を推し進めたことが香港の消費者に受け入れられたのではないかと、同社の重光克昭社長は語る。

香港人の食の好みに合わせてラーメンにも工夫を凝らした。香港生まれの「冷やしカレーつけ麺」は、日本のチェーン店のメニュー

問い合わせ先・取材協力：国際癌病回復協会 Tel: 03-5785-2249 URL <http://www.tensen-eki.com/>